

2008年のスギ花粉前線の特徴

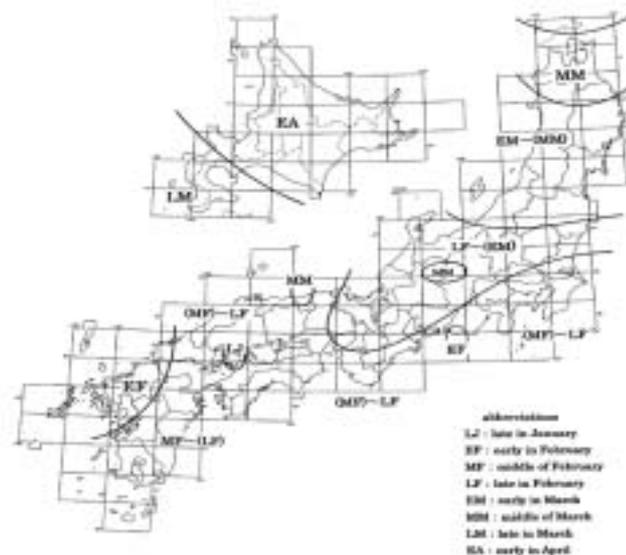
佐橋紀男（東邦大学理学部；NPO 花粉情報協会）

今年（2008）で1986年以来23年目となったスギ花粉前線作成は、当初全国のスギ花粉観測施設の僅か28地点から開始したが、1992年以降は100余地点に増加し、その後はほぼ同じ施設、地点で今日まで多くの花粉測定協力者によるスギ花粉の飛散開始日（旬）のデータにより1年の休みもなく継続作成してきた。2008年も全国106調査地点のデータによりスギ花粉前線図を作成できたのでその特徴を以下に述べる。

まず前線上陸は1月中に観測できたのは僅か1地点（松山）の1月下旬に過ぎなかった。2月に入っても上旬は少なく、西日本の九州北部と山口県西部の計5地点であったが、東日本では僅か1地点（浜松）のみであった。2月中、下旬になってようやく前線は関東から近畿の主に太平洋側と中国、四国、九州で観測された。しかし、東北南部に前線が到達したのは3月上旬になってからで昨年より2旬も遅かったが、東北北部には3月中旬に到達し、昨年とほぼ同じになった。津軽海峡も1旬で飛び越え、北海道南部（函館）に3月下旬に再上陸し、北海道の大都市（札幌）には4月上旬に到達したが、北海道中部（旭川）では飛散開始日が観測されなかった。昨年は同地点には4月中旬に到達しており、もし今年も飛散開始日が観測されていれば、昨年と同様だったと思われる。

以上のごとく、今年のスギ花粉前線は2月上旬九州北部から開始し、札幌に4月上旬に到達し、終了したが、丁度2ヶ月でスギ花粉前線がやや足早に北上したことになり、このことは丁度過去10年のほぼ平均的なスギ花粉前線に似ている。しかし、北陸や東北に限っては前線の北上は早まっており、地球温暖化と関係がある可能性も示唆できた。

終わりに今年のスギ花粉前線作成に協力くださった全国の花粉測定者、施設の責任者をはじめ、NPO 花粉情報協会の関係者に心から感謝申し上げます。



2008年のスギ花粉前線（花粉誌：54,p.31）